

令和5年度 教育事業（SDGs関連事業） 親子でSDGs 秋を楽しもう！

1 事業概要

SDGs 関連事業の一環として、県下の小学1～6年生の児童と保護者を対象に、国立大洲青少年交流の家を会場にした一日体験活動を企画した。SDGsに係る3つの体験プログラムを提供し、参加者のSDGs実践への意欲付けを図った。事後には、館内掲示物やホームページでの学習成果の啓発を行った。今回で2年目となる。

2 事業の目的（ねらい）

SDGsの観点に立った親子での体験活動を通して、地球環境の保全や持続可能な社会への関心を高め、日常生活の中でSDGs推進を意識して行動する心情や態度を育てる。

3 企画のポイント

紙のリサイクルからグローバルな環境問題へと広げていく3つのプログラム構成とした。前回は食の問題をテーマにしたが、今回は紙のリサイクルの重要性について学ぶことを通して、SDGs推進につなげていった。また、クイズラリーの振り返りの際に各自のSDGs宣言（葉の形をしたカード）を「できることから始める木」に貼る手法を取り入れることで、参加者の実践への意欲付けを図るようにした。

- 4 主催 国立大洲青少年交流の家
- 5 期 日 令和5年11月5日（日）
- 6 場 所 国立大洲青少年交流の家
- 7 対 象 小学1～6年生とその保護者
- 8 参加人数 20名（子供11名、保護者9名）
- 9 講 師 明和製紙原料株式会社代表取締役会長 小六 信和 氏
- 10 日 程

- 9:20 開会式・アイスブレイク
- 10:10 出前授業「紙はゴミじゃない!!」
- 11:45 野外炊事「カレー作り SDGs バージョン」
- 14:30 ときが森こども冒険プログラム「ときが森 SDGs クイズラリー」
- 15:30 振り返り・閉会式

11 活動内容

アイスブレイク後、紙リサイクルに関する出前授業に親子で参加した。ゴミ箱から取り出した紙くずを再利用して葉書を作る実験を見たり、紙リサイクルの流れを詳しく学んだりして、最後に「紙はゴミじゃない」シュプレヒコールを行った。その後、班分かれてSDGsカレー作りを行った。どのような調理法や片付け方がSDGsにつながるかを話し合った後、工夫しながら調理した。休憩をはさんで、鶴ヶ森をフィールドにSDGsに関するクイズラリーを行った。紙リサイクルの問題から入り、森林伐採や地球温暖化の問題へと広げていき、ゴールでは「自分でできるSDGs宣言」をし、宣言カードを「できることから始める木」に貼った。



また、クイズラリーの振り返りの際に各自のSDGs宣言（葉の形をしたカード）を「できることから始める木」に貼る手法を取り入れること

12 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を示す。 *満足：90% *やや満足：10%

- SDGsのことをいろいろと考えるいい機会になった。防災にも役立つ内容だった。
- 親子でカレー作りを楽しむことができた。いつもよりおいしく感じた。
- SDGsを意識しながら調理ができ、工夫したことをみんなで共有できた。
- 今からは自分ができるSDGsを意識してやっていこうと思う。とても勉強になった。
- 紙はゴミじゃない!!



13 事業の成果（参加者の様子を含む）

紙のリサイクルからグローバルな環境問題へと広げていく三つのプログラム構成と順番が効果的で、参加者の学びの質や意識向上につながった。特に、出前授業「紙はゴミじゃない！」は、講師の紙リサイクルへの熱い思いと分かりやすい講話が参加者の深い学びにつながった。SDGsカレー作りでは、工夫することは多くあるが、あえて強要せず参加者の判断で調理に臨み、後から工夫点を共有し合うことができた。また、事業の最後に各自のSDGs宣言（葉の形をしたカード）を「できることから始める木」に貼る手法を取り入れることで、参加者の実践への意欲付けを図ることができた。

余裕のある時間配分だったので、休憩を取りながら秋の一日をゆっくり楽しめたようだ。参加者アンケートでは、20名中18名が「満足」、2名が「やや満足」と高い評価を得ており、事業のねらいを達成できたと思われる。



14 事業の課題

参加者の満足度が高かっただけに、次回は参加者がもっと増えるよう、広報活動の工夫や広報対象の拡大が必要である。また、日帰り事業として2年行ったが、その成果を踏まえて子供対象の宿泊事業の可能性を検討したい。さらに、交流の家利用者がSDGs推進を意識できるよう、今後年間を通じた事業展開をしていきたい。

（担当：企画指導専門職付係員 小池 源規）